

## 資料室だより 138

ミサの根源「神と人との記憶」 米田彰男 知泉書館

第24期本科卒業生の寄付金により上記の本を購入しました。知泉書館は人文、哲学、宗教、歴史などにわたり非常に優れた書籍を出版し続けている出版社です。出版の黄金時代はすでに彼方に去り、紙媒体による出版界は厳しい状況にありますが、このように高い水準の書籍だけを刊行してくれる知泉書館の存在はありがたいものです。

さてこのたび購入しました本は「神と人との記憶」というタイトルも魅力的です。聖グレゴリオの家はミサ聖祭を中心として活動しております。ミサにあずかると同時にミサの根本原理を勉強していくことも肝要と思います。

キリスト教を理解する2つの鍵、「聖書」と「エウカリスチア」を結ぶ記憶、記念、想起が根本概念としてここで扱われています。

序論：コムニオの神学

本論：「わが記念としてこれを行え」について（犠牲の想起、アナムネーシスに関する内容になります）

ミサに関する名著、ユングマンの「ミサ」（オリエンス）は当館に所蔵しておりませんのでいずれ購入予定です。所蔵している本としては

- ・ミサーその意味と歴史― 土屋吉正 あかし書房
- ・ミサを祝う―最後の晩餐から現在まで― 国井健宏 オリエンス  
があります。

またヨセフ・ラッティンガー（前教皇ベネディクト16世）の「典礼の精神」（サンパウロ）も参考になるかもしれません。

（杉本ゆり 記）